

第五章

言語

言語の中には、一民族の文化的富が蓄へられて、子供達が其前時代の富を繼承^{ウケツク}ぐ力を與へる處の或る實際的經驗の鍵を見出した時に開かれる様になつてゐるのである。言語は象徴であり、意味を再現し暗示する。

ジョン、デューナー曰く

「言語は各個人にとつては、その人が言語の意味に眞に關係のある或場合を經驗した時に、はじめて其意味を成す。行爲なしに言葉のみで—實際の物を取扱はないで—意味を與へようとする試は實際の言葉の眞意を奪ふ。

一定の言葉或は一定の談話の形式が存する時には又一定の觀念が存する、と同時に、事實上は成人も子供も同様に、最も漠然とした最も混亂した意味で思ふ事を、精密な言葉の形式を使って表す事も爲得る。

言語は思想の符號であり、そして思想は經驗から起る。」

一般目的

他人と相通信する方法を供給する事。

幼稚園時代は、俗語の充分な基礎を與へられる時期である。子供は言語に含まれた他人の意味する事を會得する能力を持つべきである。

思考を明瞭にする様に助けること。

又子供が經驗から發見した意味を—かような意味が考へ方にも用ひられ得る様に—確にする事。

子供が彼の經驗に於て精密な區別を認め得る様になると彼は彼の考に適合する言葉を探す。若しそれが供給されるか、或は其の場合の爲に特に作り出されれば後に考へる時に容易にその場合を照參する事が出来る。言語は辨別に付いて新しい基礎を子供に與へる。

特殊目的

口述表現の技倆の増進。

一層廣い經驗と一層明瞭な辨別とに起因する單語

の増加。

更に進歩した文法上の構成クミカタ。一層完全な文章。その表現に於て自發性を失はずに、しかも互に連絡する文章。一層明瞭な發表。正しい發音。明快な句調。考をまとめること。

觀念を充分に發表することに於て、子供は、彼の經驗の一層明瞭な局面を強める事や、それらを過去の經驗に結びつける事やそれらの古い經驗を言葉で區別する事を學ぶ。社交に於て、他人の考へや感を自分自身の考に照して理解し、それに依て自分自身の考や感を擴大し又修正する。

表現の自由。

子供が、言ふべき時には、何かしら云はなければならぬ。感ずるようによ導かなければならぬ。子供が彼の考を他に傳へる様に勵まされる、といふ事を感じて導かねばならぬ。

主題。

會話、お話、リズム、唱歌、は幼稚園時代の大部分を占めて居る。是等は各地方によりて異なるものである。實際の會話、問答は同様に共通の興味を論題の出發點としなければならぬ。さうすれば會話の主題

は各幼稚園で異なる——子供達の環境や經驗が異なるから——言語發達の形式に於ても亦幼稚園によつて何分かの違ひがある。

外國で生れた子供達ばかりの幼稚園では、英語は新しい言語として教へられなければならない。そして最も簡單なお話と唱歌が多く身の振や繰り返しや挿繪を使用してされなければならない。主題は自ら二つの大きい系統に分れる。

1、幼稚園の經驗。

幼稚園の經驗は、口述の表現に缺くべからざる主題を供給しなほ幼稚園内の活動と材料とも關す。玩具お話。畫繪。競技。遠足はたえず暗示や問題や説明や評論を要求する。

2 各自の經驗。

子供或は教師の幼稚園以外に於ける各自の經驗は、それが社會的に意味あるものならば、手近な幼稚園の經驗よりも更に廣い範圍から主題を紹介するのに時機をあたへる。お話や繪畫は屢々同様の目的に役立つ事がある。要目の主題によつて提案された、會話の論題は次の様である。

人形の爲に如何にして着物を作るか。幼稚園の室

内の掃除。ジュリーを作るのに必要な材料。

幼稚園の動物の世話と彼等がどんな風な動作をしどんな風に食べたかといふ事。感謝祭の爲の準備。

鍛冶屋をみに行くこと。種子や球莖を植える最上の方法。ワシントン記念日の爲の特別な室飾り。早春の花。風の仕業。^{シワッサ}公園に行く道と其處に何があるかといふ事。

方法

會話の爲にわざ／＼一日の中の或時を限るといふ事はしないがよい、さういふ風にすると形式的になり強制になるから。

幼稚園に於ての言語發達の方法は家庭に於ての無形式の方法と同じ様にあるべきである。主な異いといふのは學校では選ばれた場合が備へられるといふ事で、それはたゞに子供に興味あり又話欲望を興へるのみでなくは會話の主旨の選擇をあたへ、子供の考を表すのに充分な單語を供給する。あだかも家庭に於て或出來事の持ち上た時に家族をあつめて種々な話が交換されるのが常である様に、幼稚園では子供達がピアノを圍んで歌をうたひに集ふ時があり又生れたばかりの蝶の羽根の乾くのを集て見守たり

或は子供の持て來た玩具を見たり又皆の（團體としての）手紙を書いたりする事がある。其時には全體に渡り興味ある問題が考へられる。

小供達は終日、いつでも表現の自由を持つべきである。教師と同じ様に他兒に質問を出したり又仕事の手助けをたのんだり又自分の意見を述べたりする。かようにして或は承認し或は否認する事のある他人の智識に依て自分の考を試みるのである。若し幼稚園の經驗が眞當に考へる様に子供を刺戟するならば會話は、言語を學ぶ方法として適切なものになる。しかし或場合に子供達の話がつまらないものになるのといふは其の場合が旺盛な思考作用を刺戟しない時のみにかぎる。

誤つた方法。

その特性から云ても會話といふものに就て、基範を與へるといふ事は殆ど不可能な事である。

會話は、會話をする人達の精神的な態度によつて變化する應答である。謂所會話といふ時の誤つた方法は示すに容易な事である。

1、問答法。

教師は次の様な問を出して、言語の時間を始む。

「昨日は皆で何に就いて話してゐましたか」

もし前日に印象がなかつたとすると。此の間に對して何の答も出ない筈である、でなければ出まかせの想像の答にすぎない。

「旗を持た人は背の高い人でしたか」

「さうです。兵隊です」

「兵隊が何をしたらと云ひましたか」

此の様な方法は。子供は唯報告するばかりなので、興味を呼び起さない。

2、獨白の方法。

この方法は教師が自分の或る經驗に就いて子供に話して聞かせるのに全く時間を費す。それは子供にとつては受け身であつて話題に興味がなく、或は教師と同じ様にその話題について知る事は出来ても、少しも發表の機會を與へられない。子供は常に或る直接經驗の方から見聞を集めるものである。

3、聯絡のどれてゐない方法。

教師は先づ問ふ。

「今朝誰か、何か話す事はありませんか」と。

その結果として多數の子供は多くの聯絡のない論題に就いて話す。此の法方は考を纏めさせない。

若し表現の手段として觀念のみを用ふ事が出来ない—子供が小さすぎて—時には、表現の手段として固形の材料、たとへば繪畫や指遊やお芝居又は自然の材料の如きものは主題を組み立てるものゝ補助となる。

4、組織立ち過ぎた方法。

教師はまづ

「昨日は何處に栗鼠が住んでるか」と云ふ事を話しましたから、今日は栗鼠がどんな容子をしてゐるかを話ませう」と云ふ。然し子供はその様な詳細な事ながらに専心集中する様にはなつてゐない。

若し子供の言語が自由にそして存分に發する事が出来る時には子供は全體に就いて答へなければならぬ。

5、繪畫を用ふる貧弱な方法。

「此處に繪があります。此の繪の中には何がありませんか」といふ問は屢々會話の發端として教師の用ひる方法である。若し繪が子供に親しみある經驗を表してゐるのであつたらば斯様な問は不必要である。—繪それ自身が興味ある會話を提案するのであるから。然し若し繪が子供に全く無關係な物なり動

作なりを表してゐるとすれば、子供達は其の意味を想像はするが然しそれは言語上の價値は少しも持たない。

子供は、教師が繪を説明する時に用ふ言葉を學ぶ—自分もそれを話す様に—が、然しその言語に内容が無ければそれらは單語にはならない。

正しい方法。

1、全體(群)と共にした經驗を喚起する事。

仕事をしてゐる大工を見たり、風に吹かれて遊んだり、花壇に植物を植えたり、した様な極めて明瞭な經驗は普通會話にとつて善い出發點である。

「言語は、自然に向た時には力強い效果あるものとなる」、子供自身は言語の正しい形式を用ひなければならぬ。「口述の正しい形式を絶えず反復するといふ事は、日常會話に於ける野卑な發表や文法上に違てゐる言葉の使ひ方の習慣を碎くのに唯一の良法である。言語を學ぶといふ事は智識の上のみでなく、運動神經の習慣と耳の練習とに關した事柄である」。

若し子供が聯絡の出来ない滅茶苦茶な方法で經驗の説明をする場合には、教師は幾らかの間を出して

時間の終りに—興味ある提言として—出來事の成行に従て子供の考を結び付くべきである。

2、一人の子供の經驗を全體(群)に話すこと。

子供は教師の下に走て行て、皆の子供達に話さないで、教師にだけ話さうとする傾向がある。

或る一人の子供の話が、全體にとつても意味ある性質のものである時には、教師は其の子を補助して全兒に其の話をする様にさせる。

自分が話す價値のあるものを持つてゐるので、全體を喜ばせる様にする事の責任は、社會的の立場から獎勵されなければならぬ。

3、口述表現の組織を要求する社會狀態。

幼稚園儀式の招待狀、缺席の子供や教師への手紙等は書く形式で觀念を形づけるには最もよい機會である。次に掲げるのは轉居した小さい子供へ或幼稚園から送られた手紙である。—子供の云ふ通りに教師の書いたものである—。

「ピーターさん。

新しい學校はいかがですか。お母さんは御機嫌

ようございますか。フロレンスやメリーやジエミ

は元氣ですか。

いつか幼稚園に遊に來られますか。私達は皆樂しくして居ます。あなたも樂しくお過しですか。

新しい學校で何をお作りになりましたか。私達は鋏を作て昨日それに色をつけました。

メリーさんにあなたがどうしてお出か、それとあなたの學校の事に就いて私達へあなたの代りに手紙を書くように話して下さい。早くお目にかゝりたうございます。」

4、繪畫を用ふる良い方法。

解釋し得る様に導く處の質問は、畫を分析する様にする質問よりも一層よく藝術精神に適應する。

「誰か此の繪に就いてお話が出來ますか」と言ふ問ひは

「此の繪の中に何がありますかと」
言ふ問ひよりも良い。

次の話はミレーの「歩き初」に就いての解釋として、五歳になる子供が話したものである。

「お父さんは赤ん坊に「こゝまでお出」と云て居たそれからお母さんは赤ん坊を抱いて居た。

「こゝまでお出くそしたら私は車に乗せてあげよう。」

ある時人が畑で麥を摘んでそれを皆車に入れて居た。お母さんと赤ん坊はお庭の方はどうなつたかと思つてやつて來た。彼は赤ん坊を抱かうとして手をのばしたそして赤ん坊を抱き上げ様と思たけれどもする仕事は澤山あつた。彼は赤ん坊を抱けなかつた、それからそれを仕てしまつてから種子を蒔いた。澤山の木が生え居る。方々の國から大勢の人がどんなに善いかとそれを見に來た。彼は垣根をした。それで誰もは入て觸らなかつた。彼は麥を粉ひき小屋に持て行た。

粉ひきはそれを粉にした、それで私達は食物を得られるのだ。」

繪に就いての短いお話が子供に依て話された後、幼稚園の教師は誤解した部分へ注意をひく事が出來る。たとへば上述の話は「歩き初」に書いてある手押車は見なれないものであるといふ事を示して居る。それで會話は熟知してゐる種々な物の中にある、見なれない物の上に集注される。或時には誤解されるものは繪の意味であつたり又動作である事がある。斯様な場合には幼稚園の教師は正しい意味へ導く様な事がらに就いて問ひを出す。

かような繪を學ぶ方法は、想像を發展させなほ繪と繪に就いての考へに統一を與へる。問ひが單に繪の種々な部分を指示するのである時は、注意力は發展するが、それは眞に繪畫を使用する方法ではない。それは種々な部分の關係から表現された眞意の熟思である。

口述言語の補助。

言語の働は手仕事や書く事や芝居化に依て大に補助される。觀念の傳達は言語である、と云ふのは身振手振も眞に言語の用語となり又言語を豊富にする其れ自身の言語を持って居るからである。

この芝居化と書く事と言語とは密接な關係を持つてゐる。幼稚園時代の子供は第一には芝居化に依て次には口述の言語によつて、更に書く事に依て觀念を明確にしようとする。ずつと幼い子供は起つた事件の成行をあまり注視せずに經驗の種々な部分を芝居化する。次いで起る口述表現は順序立つた物ではないが、身振や手振よりは一層連絡のあるものである。書くといふ事は經驗の個立した部分を明かにする。子供が成長すると其の考は更に組織したたものになつて來る。其の芝居化する事も殊に種々の出來事

を語らふとする企圖が表れ、其の口述表現は原始的なお話にある事件を含むんでゐる。そして書く事は多少連絡ある種々な物を再現する。芝居化は原始的言語の形式に於ける構成である。繪は繪畫的形成に於ける構成である。この二者とも觀念を組織立てる事を助ける爲の言語と連絡して教師に用ひられる。

效果

子供の言語發達の上に家庭の狀況は、大なる影響を與へるから、絶對的な基礎を置くといふ事は出来ない。幼稚園に於ける之が訓練は、以下に示す如き、欲望、力、支配(自在にすること)を増進せしめなければならぬ。

1. 語調、發表、發音、文法上の構成の統御と支配。

2. 問を發したり、自分で言ひ表したりして觀念を言語にする力。

3. 單純な會話の理解と上述の項目へと適應する事の可能性。

4. 漠然とした考へを、正しい充分な言語で表現し、單語の數に加へようとする欲求。

語數には學校や家庭や近隣の一番親しみの多いも

の、名が含まれてある。又日常生活や遊びの爲に子供達が了解する必要のある様なもの、性質や活動、又子供が好奇心を持つ處の性質や活動が含まれてある。禮儀正しい交際の應答がすべての幼稚園で發達せらるべきである。「どうぞ。ありがたう。ごめん下さい。はい○○さん」は相當すべき時に自然に出て來なければならぬ。話された時に答へる事と、一人の話が終るまで待つといふ事は練習と一結果とならなければならぬ。

言語の教育は、子供の發音し得る字數に似て測らるゝものではなく、子供の役に立ち適用せられ得る單語で表はされた或る經驗の觀念の明瞭性に依る。

○教育會館建設に關し御下賜

金五萬圓を下附せらる。

學制頒布五十年記念に際し、帝國教育會會長澤柳博士の提唱によりて教育會館建設の企圖せられしは前號に記したる如くなるが、去月二十一日第六回帝國聯合教育會の當日、同博士は宮内省に出頭、かしこきあたりの御思召に依りて右の金額御下賜あらせられたる趣の、御沙汰書を拜受された。

この事の企圖既に同慶なるに更に此處に光榮ある報に接し多くの同志と喜を分つと共に吾等の任務いよゝ重且つ大なるを思ふ。

○文部省幼稚園講習

期日 七月二十五日より五日間

午前八時より十二時迄

會場 東京女子高等師範學校講堂

課目及講師

一、幼稚園軌近の實際問題(八時間)

東京女子高師教授 倉橋 惣三

一、クレイオン畫の描き方實習

東京女高師助教授 山形 寛